

* 仙台市衛生研究所ホームページ:

<http://www.city.sendai.jp/bisebutsu/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/ese/index.html>




今回は 2010 年以降 全国的に増加している 梅毒 についての特集です



梅毒って？

梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体による感染症で、**性的な接触(他人の粘膜や皮膚と直接接触すること。具体的には、性器と性器、性器と肛門、性器と口の接触等。)**によって感染します。症状は、感染したあとの経過期間等によって、出現する場所や内容が異なります。

早期顕症梅毒 第Ⅰ期 (感染後約3週間)	感染がおきた部位(主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等)に しこり ができ、股の付け根の部分(鼠径部)の リンパ節が腫れる こともある。 痛みがないことも多く、治療をしなくても症状は自然に軽快するが、体内から病原体がいなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性もある。
早期顕症梅毒 第Ⅱ期 (感染後数か月)	第Ⅰ期の症状が一旦消失したのち、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体に <u>うっすらと赤い発疹</u> が出ることもある。小さなバラの花に似ていることから「 バラ疹 」とよばれている。 発熱、倦怠感、泌尿器系、中枢神経系等に症状 を呈することもある。 発疹は数週間以内に消える場合があるが、病原体は体内に残っている。
潜伏梅毒	無症状。第Ⅰ期と第Ⅱ期の間、第Ⅱ期の症状消失後の状態を主にさす。
晩期顕症梅毒 (感染後数年)	皮膚や筋肉、骨などに ゴムのような腫瘍(ゴム腫) が発生することがある。また、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、 心血管梅毒 や 神経梅毒 に進展する。場合によっては死に至る。
先天梅毒 	妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤を通して 胎児に感染 し、 死産、早産、新生児死亡、奇形 が起こることがある。 生後まもなく皮膚病変、肝脾腫、骨軟骨炎などが認められるものを早期先天梅毒といい、乳幼児期は症状を呈さず、学童期以降に Hutchinson3徴候(実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯)などの症状を呈するものを晩期先天梅毒という。

全国での発生状況は？

全国的には、2010年以降、梅毒の報告数は増加を続けており、男性は20歳代～40歳代、女性は20歳代の報告が多くなっています。とくに、2015年は20歳代女性に著しい増加が見られました(図1・2・3)。2011年以降の病型では、早期顕症Ⅰ期が2015年において2014年の2倍以上報告されています(図4)。

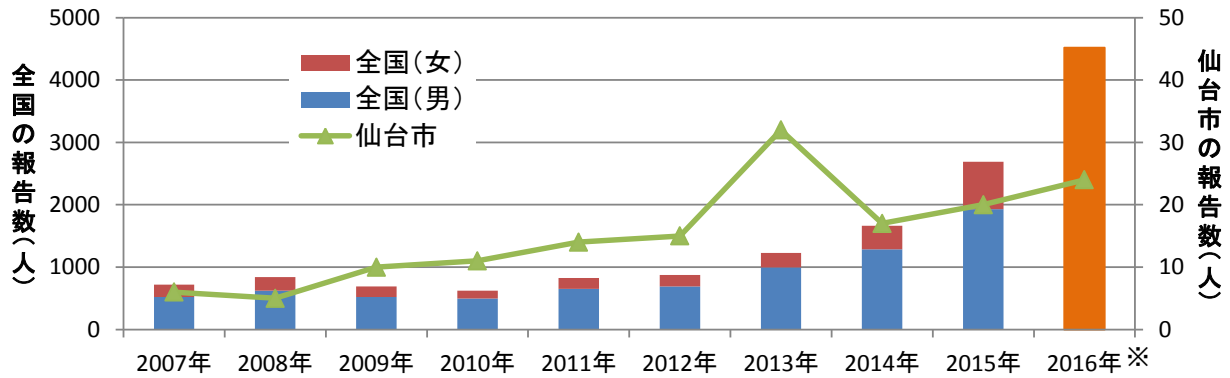


図1 2007年から2016年までの梅毒報告数

※全国の2016年報告数は、年報が未確定のため、2016年第1週～第52週(2016年1月4日～2017年1月1日)の暫定報告数を用いています。

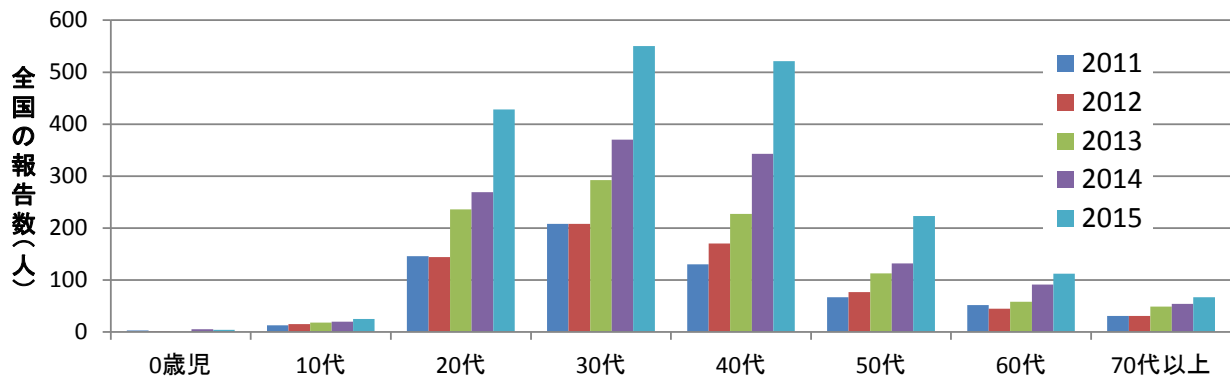


図2 2011年から2015年までの年代別の報告数(全国・男性)

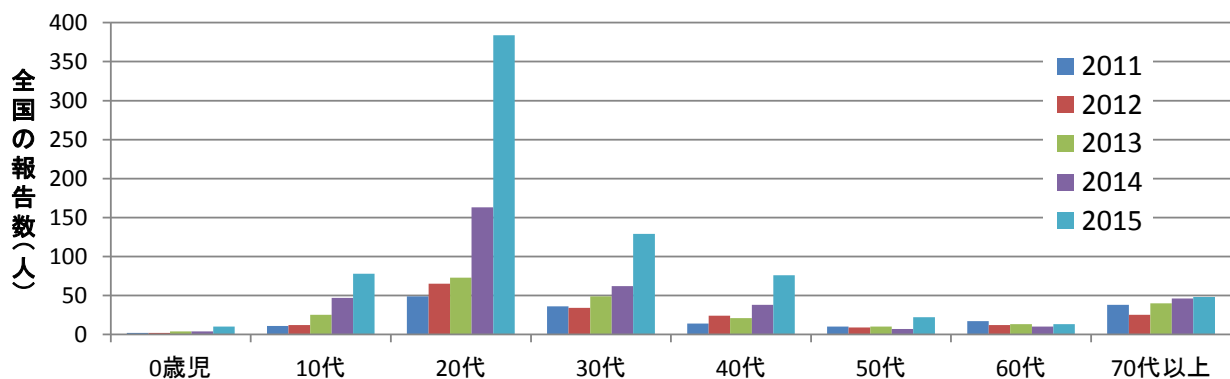


図3 2011年から2015年までの年代別の報告数(全国・女性)

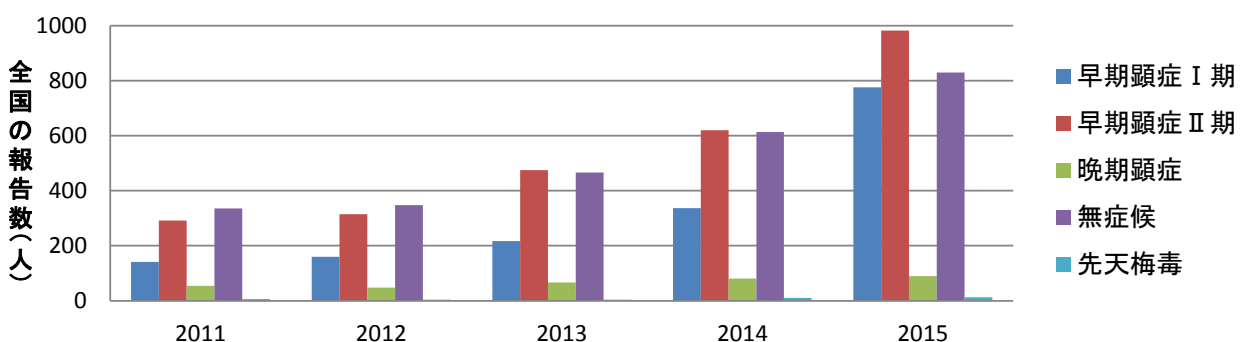


図4 2011年から2015年までの病型別の報告数(全国)

※2016年は、年報が未確定のため、図2～図4に含めていません。

仙台市での発生状況は？

仙台市内では、過去 10 年間に於いて概ね微増傾向にあり(図5)、年齢分布を見ると、男性は 20 歳代～40 歳代、女性は 20 歳代及び 30 歳代の報告が多い状況です(図6・7)。

2011 年以降の病型では、早期顕症 I 期が 2015 年及び 2016 年に増加しており(図8)、推定される感染経路は、性的接触が半数以上で、そのうち異性間接触が多数を占めています(図9)。

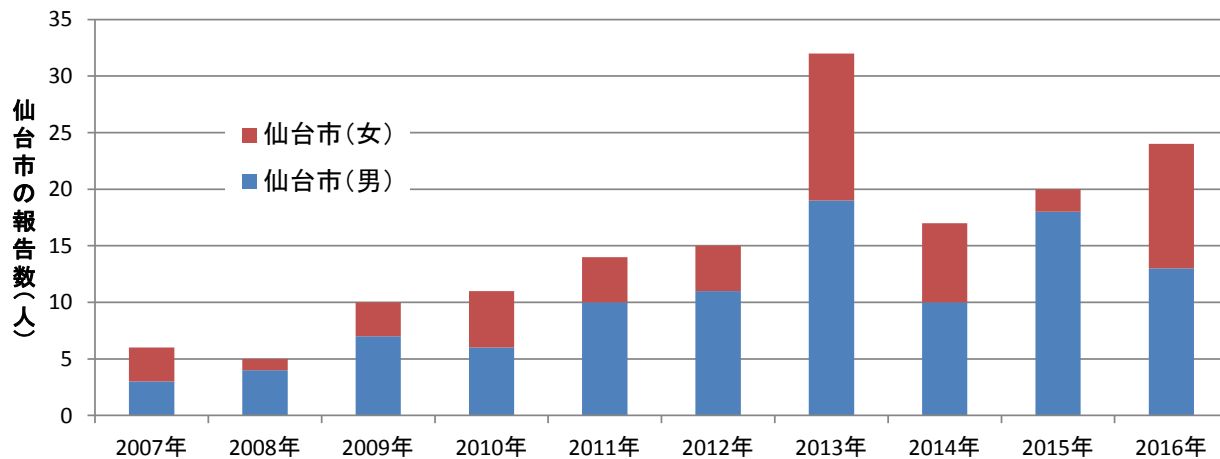


図5 2007年から2016年までの梅毒報告数(仙台市)

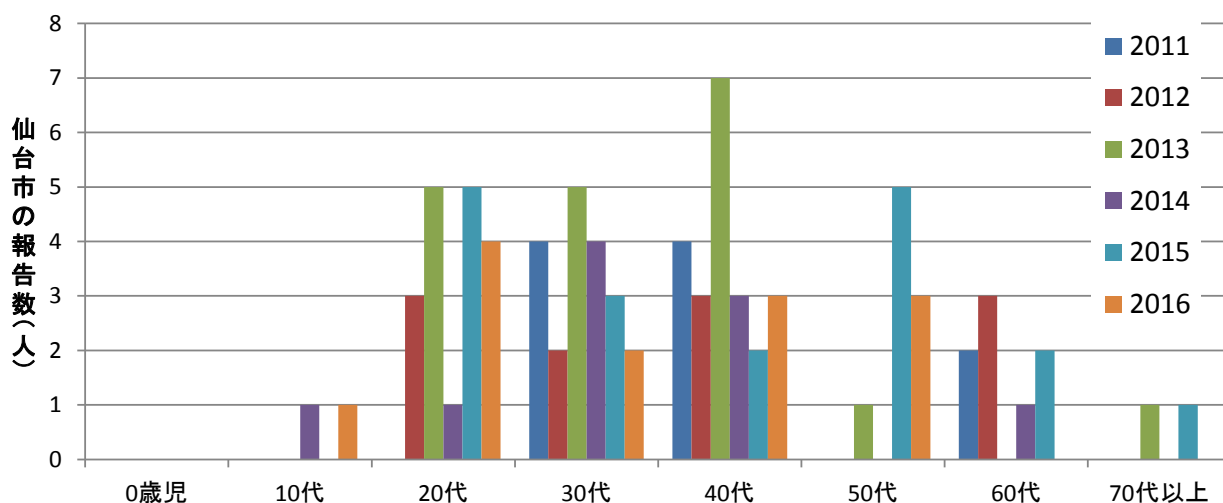


図6 2011年から2016年までの年代別報告数(仙台市・男性)

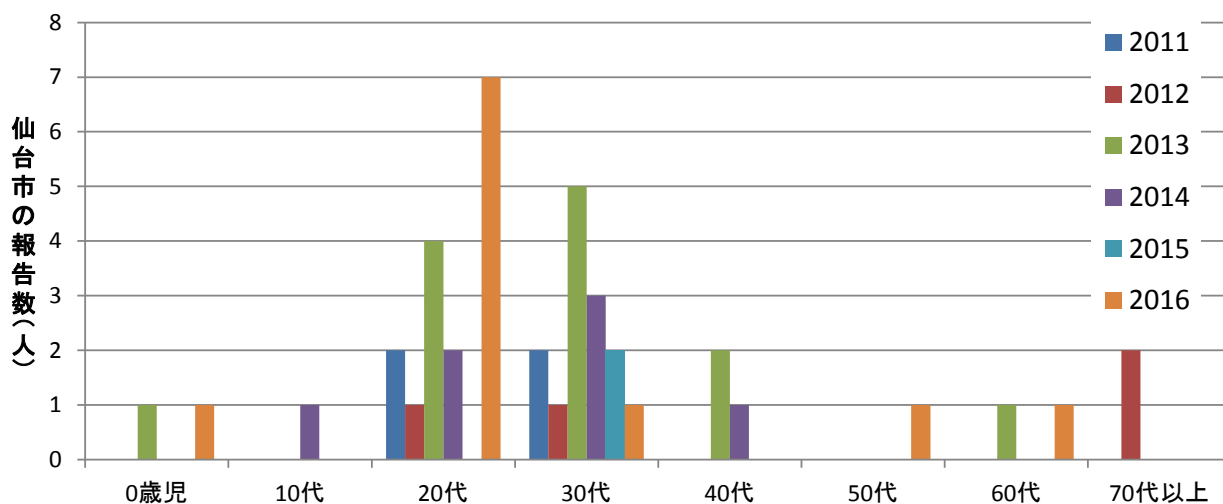


図7 2011年から2016年までの年代別報告数(仙台市・女性)

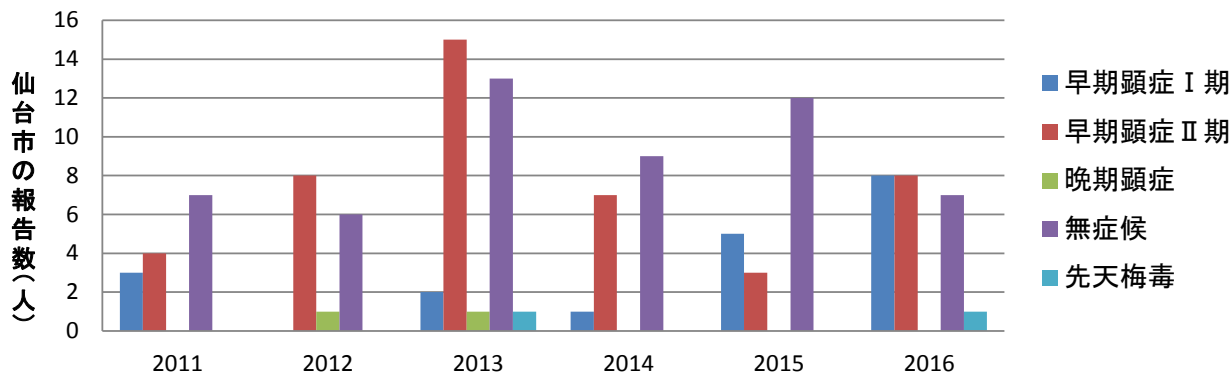


図8 2011年から2016年までの病型別の報告数(仙台市)

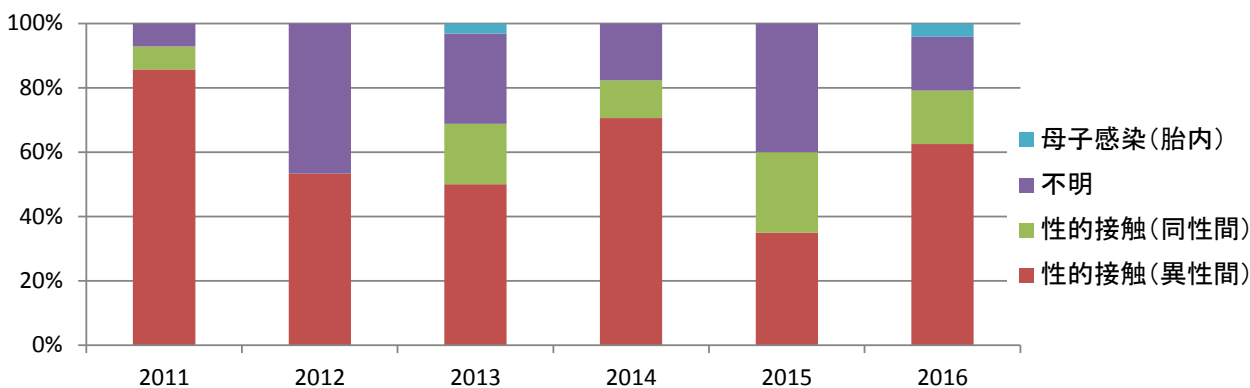


図9 2011年から2016年までの推定感染経路の割合(仙台市)

2017年の仙台市での発生状況は？

市内では2017年に入り、1月31日までの間に、9例の報告がありました。年代別の報告数は下記のとおりです(図10)。

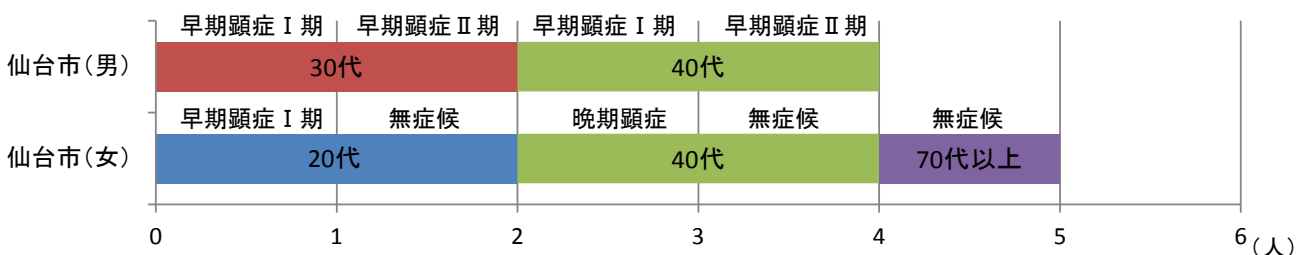


図10 2017年1月の梅毒報告数(仙台市)

注意すべきことは？

- 不特定多数の人との性的接触は感染リスクが高まります。
 - コンドームの適切な使用が勧められます。ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などでも感染が起こる可能性がありますので、過信はできません。
 - オーラルセックスやアナルセックスでも感染します。
 - 梅毒は、終生免疫を得られず再感染する可能性があります。
 - 感染が疑われる場合は、早期に検査や医師の治療を受けることが重要です。
- 仙台市の検査については、下記をご覧ください。



<http://www.city.sendai.jp/kenkoanzen-kansen/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/kansensho/aids/kensa/baidoku.html>

- 感染していた場合は、周囲で感染の可能性がある方(パートナー等)と一緒に検査・治療を行うことも必要です。